

# 当局は貨車解体作業の 劣悪な労働条件を改善しろ

## 日刊 動労千葉

87. 8. 10  
No. 2624

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

### スト権一〇〇%確立し

### 『4・1』体制をぶっとばせ

七月十八日、幕張、習志野電車区から強制配転を強行した「貨車解体」作業は、「鉛中毒」もさることながら、炎天下での作業を強行するなど、全くひどい労働条件のなかで働かされている。

詰所には電源さえもない！

に起ちあがっている。

### 労働条件改善の団交拒否を許すな！

「貨車解体」作業は、越中島駅のただっ広い構内で強行されているが、現場は庁舎から車で数分、歩いたら十五分のところである。

このようなタコ部屋的で劣悪な労働条件においてやっておきながら、労働条件改善の団体交渉は拒否しつづけている千葉運行部を絶対に許さない。

現場は炎天下のため、一応「休憩小屋」がもうけられている。しかし、全くの「ウサギ小屋」であり、突然の夕立で雨やどりをしようにも、十八名の配転者全員がとも入りきれぬ状態ではない。また、「休憩小屋」には電気がなく、ちよつと休もうと思ってもクーラーどころか扇風機も使えないのである。

越中島での追及に対して車務課長河野は、「鉛中毒」については「名前は言えないが専門家が大丈夫だと言っている」といいはり、飲料水について土岐は「使っていればきれいになると思った」などと話しにもならないコジツけを言っており、

動労千葉との団交は「絶対にやらない」と公然と不当労働行為を行っているのである。

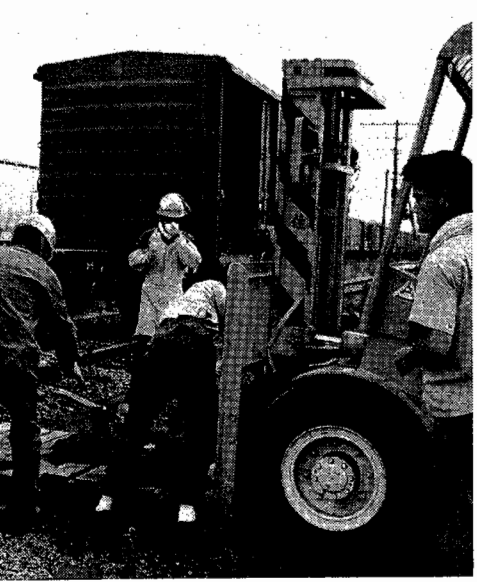
さらに、鉄道電話さえそなえつけておらず、異状時での連絡さえままならない状態である。この間、まともな安全教育もほどこされていなかったところから、指をつぶした、足をケガした、腰を痛めたなどのケガが続出している。もし、大事故がおきたら、こんな状態の作業でいったい誰が責任をとるのか！

われわれは、千葉運行部のこうした団交無視の不当労働行為を絶対に許さず、当面出向拒否のたたかいを軸に、「スト権一票投票の一〇〇%達成」のために全力でたたかう決意である。

まともな飲料水をよこせ！

「スト権一〇〇%確立」で全面的な反転攻勢に起ちあがり、「4・1体制」粉碎のためにたたか

さて、庁舎の方はいったいどうなっているかといえ、越中島貨物取り扱い駅が廃止されて以来、一年以上全く使用していない廃屋になっており、そこに十八名がぶちこまれている。



切断した部品をさらにフォークリフトで移動させる。汗まみれでの重労働だ！

「日刊No.2618、8月3日」で既報したように、現地視察に行った動労千葉田中執行委員を排除するために越中島に「はせ参じた」運輸課係長土岐は、配転させられた仲間の追及に対し、沸騰させて冷した水を飲んで、わざわざ「うまい水だ」とフザケたことを言っており、おとなしい国労の組合員でさえこの暴言を絶対に許さず、追及行動

スト権一票投票  
8月17日〜23日実施